

サブプライムローンって なーに

最近、経済のニュースでサブプライムローンという言葉が良く出てきます。どんな意味かという...。まずローンというのはお金を貸し付けること。

家を買うとき、すぐに全部は払えないから、銀行からお金を借りますね。あれがローンです。プライムというのは、「優良(ゆうりょう)の」という意味。サブは「それより下の」という意味です。つまり、サブプライムローンというのは、優良より下、収入(しゅうにゅう)が少ない人向けの住宅ローンのことなのです。

アメリカにしかありません。このサブプライムローン、いま世界的に問題になっているのです。どういことなのでしょう。

家を買いたいと思っけていても、収入が低いと、ふつうはお金を貸してくれません。



そんな人が利用するのが、サブプライムローン。住宅ローンの会社が、お金を貸します。収入の少ない人が、サブプライムローンを利用して家を買いました。

ローン会社は「もしかしたら返してくれないかもしれない」と考えます。

そこで、お金を貸したときに、お礼として受け取る利息(りそく)を、普通のローンよりとても多くするので。

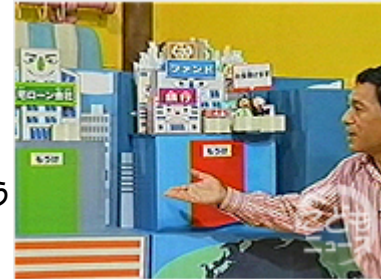
この利息が多いのがサブプライムローンの特徴(とくちょう)です。でも、利息が多いと、お金を返すとき大変ですね。収入の低い人が、お金を返せるのでしょうか。

実は、アメリカでは景気がとても良くて、数年前から家を買う人がどんどん増えました。買いたい人が多いので、住宅の値段が上がっていきます。買ったときよりも、値段が高くなるのです。「もし払えなくなったら家売って借金を返せばいいのです」。ローン会社はそう言って貸しました。だから、収入の少ない人が借金することができたのです。

サブプライムローンを利用した人は 600 万人を超え、金額は 150 兆円に上りました。ローン会社は、どんどんもうかりました。

しかし、貸した相手は収入の少ない人たちなので、返せない人が出ないか、やはり心配です。

そこでどうしたかというと・・・貸したお金を返してもらえると
いう権利(けんり)、貸したという証明書(しょうめいしょ)のよ
うなもの、これを集めて売ることにしたのです。



では誰が買うのかというと、世界の銀行や、ファンドと呼ばれる会社です。

ファンドというのは、いろんな人や会社から、お金を預かって株を買ったりして、代わりにもうけてあげるのが仕事。こんなものを買って、もうかるのかなと思うかもしれませんが、利息がたくさんもらえるから魅力的です。それに、住宅の値段が上がれば心配はありませんね。

そこで世界中の銀行やファンドが、この権利をどんどん買っていったのです。

しかし、住宅の値段がずっと上がり続ければみんなハッピーというところですが、そうはうまくいきません。

住宅の値段が上がりすぎて、買う人がいなくなりました。その結果、おそれていたことが起きてしまいました。住宅の値段が去年から急に下がりはじめたのです。

すると、どうなるか。

サブプライムローンを利用した人たちは、家が高く売れないので借金が返せません。ローンを利用する人も減って、ローン会社はもうからなくなります。

さらに、ファンドや銀行が持っている「お金を返してもらえる権利」も紙くず同然。お金が入らなくなるから、次々と損をします。

それだけではありません。

ファンドにお金を預けている人が、心配になって金を返してほしいといいます。そこで、ファンドは自分が持っている株を、世界中で売ってお金に代えようとしています。株を売る人が急に増えました。

株は買いたいと思う人が増えれば値段が上がり、売りたい人が増えれば下がりますね。

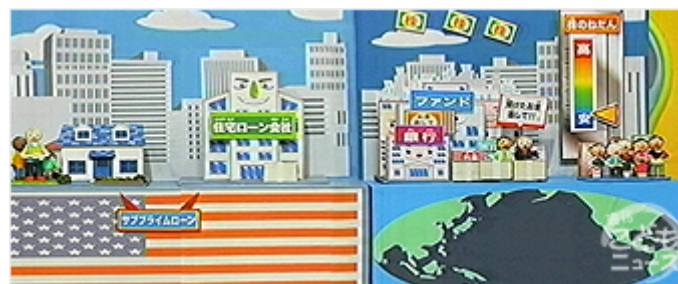
こうして先月、日本も含めて世界中の株の値段が、一斉に下がりました。株を持っている人に、大きな損が出てしまったのです。

日本でサブプライムローン借りている人はいないのに、日本でも、株の値段が下がったのはこういうわけなのです。

その後、株の値段は持ち直しましたが、サブプライムローンの問題は続いています。

それにしても、借金が返せない人が増えたという遠いアメリカで起きた出来事が、世界中の株の値段を下げる、という結果をもたらしました。

つまり世界は、国境(こっきょう)を越えて、お金でつながっているということなのです。



2007/10/06 放送(内容は放送時点でのものです)】